

Y2-16

大阪赤十字病院 dERU－新しい展開機構の紹介－

大阪赤十字病院 国際医療救援部
次田 順司、弘川 摩子、清水 亮平、
中出 雅治

【背景】dERUが平成22年度に大阪に整備されることになったため、大阪赤十字病院国際医療救援部と大阪府支部は、これに先立って従来のdERUを視察し、いくつかの課題を認めた。そこでこれらの課題を解決すべく、新世代dERUとしてその機構を全面的に変更した。本発表では、今後の各施設のdERUの整備や更新時に参考としていただくため、これを紹介したい。

【従来のdERUの課題】dERUの展開の機構は、コンテナ四隅から足が下へ伸び、トラックを移動させてコンテナを昇降するものである。既に配備されている従来のdERUを、各施設やブロック訓練の際に視察し、この機構の問題点は、1. 展開、撤収に時間がかかる、2. 地面が水平でないと展開できない、3. 構造が複雑で故障しやすい、の3点と考えた。

【大阪赤十字病院dERUの機構】上記の課題を解決するため、当院にdERUが配備される際に、機構を根本的に変更する必要があると考え、コンテナ昇降をクレーンによるつり下げ機構とした。これにより、コンテナの昇降ともに必要人数は一人で、所要時間は30秒前後となった。また、四本足機構では不可能であった斜面での展開も可能となった。一旦地面に降ろしてからの移動も容易である。機構も特殊なものではなく、いわゆるレッカー車と同じものであり、故障が少ないことが予想され、また仮に故障しても迅速な修理が可能である。また緊急時にヘリ搬送が可能のようにコンテナ上部四隅にフックを装着した。発表では、今回の東日本大震災における実際の展開の状況や自衛隊との共同訓練でのヘリ搬送などについて具体的に紹介する。

Y2-17

大阪赤十字病院における救護班医療資機材の工夫

大阪赤十字病院 国際医療救援部
池田 載子、弘川 摩子、次田 順司、
清水 亮平、中出 雅治

【背景】日赤救護班の現行の医療資機材は15年以上改訂されておらず、すでに使用されていない物品や薬剤も多く、医療の現状に合わなくなってきている。また、点滴や注射薬にガラス製品の多かった時代と異なり、現在はほとんどの薬剤がプラスチックボトル等になっており、機動性に劣るジュラルミンケースの意義がなくなりつつある。上記の背景に加えて、大阪赤十字病院国際医療救援部における国際救援と国内救護の融合をコンセプトに、当部署では平成17年よりジュラルミンケースを含む救護班医療資機材について、医師、看護師、薬剤師が中心になって全面的に見直し、前提に、新しい救護セットを作成した。

【内容】ジュラルミンケースをソフトケースに変更した。ソフトケースはメインバッグに付属バッグが装着される形になっており、リュックサック、スーツケース、手持ちバッグのいずれの形態にもなる。付属バッグは外せばそれぞれ肩掛けバッグやウェストポーチとして使用する。各バッグには内容物によって自在に位置を変更できる間仕切りがある。バッグの色は内容によって例えば薬剤ケースは赤という、国際赤十字の標準色に合わせた。資機材、薬剤は、当院で現在使用されているものに入れ替え、これによって職員の使い勝手が良くなり、且つメンテナンスが容易となった。また薬剤はWHOのエッセンシャルドラッグリストに掲載されているものを選択し、国際標準名の英語表記を貼付し、万一外国チームが入ってきた時に対応可能とした。東日本大震災において実際に使用、検証された結果と共に紹介する。